

ら出ている焰が大蛇の赤い舌に似ていることから生まれたものか。

チタンペアは熊ではなさそうだ(稲葉晉一:鉄と鋼, 71 (1985), p. 692, コラム).

図に示すように高炉の各部の日本語訳は喉, 口, 胸, 腹と人体名が多い. 擬人化したものだろうか. Deadman (独語 Toter mann) が死人と訳されなかったのは, 忌みきらい言葉を避けたのであろう. 炉芯と訳されている. 中沢護人氏にご教示願ったところ, その返事.

「私はどれかの辞書で幽霊という訳を憶えていたのですが, いま調べると, この辞書にも出てきません. (株)白水社の佐藤通次先生の独和辞典には死んだも同然の人間, または廃坑, あるいは 1916~17 年に独仏両軍の間に激戦が行われたヴェルダン付近の丘と説明されています。」

長期に操業された高炉の吹止め後の観察では, 耐火物とくに炉床の耐火物の溶損が見られた. 溶損の様子が



(田河水泡作, 漫画の主人公, 犬の名前)<sup>†</sup> の

頬に似ていることから“ノラクロ”と俗称されている.

高炉内は人間を含め, 犬, 鳥, 馬, 猿, 豚, 狼, ナマコ, 伝説の火とかげ, サンショウウオ, あるいは大蛇, そして幽霊まで三千世界をつつむ風変わりな動物園であろうか.

高炉あるいは平炉, 転炉から出るスラグ(鋳滓, 鋼滓)は「ノロ」と俗称されているが, これは初代日本鉄鋼協会会長の野呂景義先生(1854~1923)が明治 30 年代, 日鐵八幡製鉄所で操業を指導されている時, このスラグの役割が大事だということあるごとに現場マンに言っておられ, それで, 先生の名前をつけてスラグが「ノロ」と呼ばれるようになったと鳥田鉄鋼協会専務理事, 前出の中沢氏よりお聞きした. とくに, 中沢護人氏には有益な助

<sup>†</sup> 東北大学選鋳製錬研究所 大川 淳氏の好意による

言のみならず独語関係のコピーまでいただいた. ここに謝意を表す.

新日鉄, 楯岡監査役からアルカリ成分が多い時, 下部から白いものが出てくることがあり, これを“よだれ”と呼んでいたとのご教示をうけた. 最後に, 聞き齟りのため思い違い, あるいは誤りがあるかもしれない. 先輩の方々のご教示をお願いする.

## 標準試料・標準物質

広川 吉之助

東北大学金属材料研究所教授 工博

日本鉄鋼協会は日本鉄鋼標準試料を製造し, 販売している. 我が国において, いや世界的に見ても, もっとも充実した標準試料群であり, 鉄鋼各社の協力を得て製造されている. 分析, とくに機器を使う分析では標準試料, または標準物質が無ければ「丘にあがった河童」と同じく, ほとんど動きが取れなくなることを認識している人は案外少ないようである. 数年前に発見された酸化物超伝導体の分析について時々, あるグループから他のグループと同じ試料を同じ方法で分析しているが結果が異なるのはなぜかと質問を受ける. たいていの場合, どちらかか, あるいは双方とも滴定標準溶液の濃度を標準物質で標準化していないようである. はたして超伝導の研究はうまくいくのであろうか, と考えさせられる. 鉄鋼協会の標準試料として近年, 高純度鉄の標準試料が製造販売されているが, 非常に売れ行きがよいようである. 洩れ伝わってきた話では, それを溶解原料として高純度鉄の研究をおこなっているところがあるとか. 溶解による組成変化については, どう考えているのであろうか, 気になる. 直接には, 利益にまったくつながらないが標準物質, 標準試料の製造, 販売と, その適切な利用が鉄を始めとする金属の基礎研究には不可欠なのであるが.

